



東区幼保小連携推進協議会便り

令和4年度第1号 2022.7発行 東区幼保小連携推進協議会代表者会

令和4年5月31日、東苗穂小学校に参集して、「第1回東区幼保小連携推進協議会」が3年ぶりに開催されました。東区は団体数が多いため、各施設から1名のみしか参加していただけませんでした。皆様の御理解と御協力のおかげで、前半の全体研修、後半のブロック交流も充実した時間となりました。

これまで、区ごとに企画・運営してきましたが、今年度から、10区共通の内容で「幼保小連携・接続とは何か」を学ぶ形となったため、最初に、幼児教育センター担当課 本間真純指導主事より趣旨説明があり、全市で目指す方向性が確認されました。続いて、札幌市立三角山小学校長 渋谷一典氏の講演会『学びをつなぐ幼保小連携・接続 ～幼保小連携・接続～ 具体と課題を「知る」～』と題し、幼保小連携・接続の現状と課題について提言していただきました。詳細は、当日の資料で御確認ください。



当日の講演会や話し合われた内容をもとに、園内・校内で更に話し合いを深めていただき、今年度の東区の幼小連携・接続の具体化につなげてまいりましょう。



ブロック交流より・・・

1. 教えて!幼稚園・保育園・こども園・小学校の生活の実際 ～相互理解のために～

◎幼稚園・保育園・こども園で大切にしていること

- ・気持ちに寄り添い、安心感をもてるように
- ・自信を付ける～自分のことを自分でする、園の年長者として、得意を生かして、
- ・主体性を育む遊びと援助、環境の工夫
- ・遊びを通して自分で考えて行動できるように
- ・個々のアイデアが生かされる喜びや達成感の保障
- ・遊びを通した学びを分かりやすく家庭に伝える
- ・生活習慣、規範意識は時間をかけて育む
- ・見通し、時間の意識を育む～予定の掲示や予告

◎就学に向けて～園での取組や工夫

- ・主体的、意欲的に取り組む経験
- ・人と関わる、話を聞く、話し合う経験を重ねて
- ・午睡の時間を徐々に減らして生活リズムを整える
- ・学校ごっこなどの遊びで楽しみながら期待へ
- ・小学校訪問や交流で入学のイメージや期待へ
- ・文字に触れる～入学後に学習するので焦らずに...
- ・就学に向けて保護者自身が準備できるように
- ・小学校を「知る」…通学の体験、学校見学
学校との連絡方法や頻度の違いなど

◎小学校のスタートカリキュラム ～もっと知りたい!学びたい!

- 入学まで～個々の様子を知る～要録から、園を訪問し直接様子を見たり聞いたりして
 - ・入学説明会～スタートカリキュラム、時間割の説明、小学校の先取りをしなくてもよいことを発信!
- 時間割、授業の工夫・改善～学校は楽しいという印象をもてるように
 - ・入学後の時数を徐々に伸ばし、少しずつ机に向かうようにする 合科的取組で
 - ・集中時間に合わせ、45分間を10～15分間ずつの短時間に分けて、休憩時間を取って
 - ・幼稚園、保育園での遊び(歌、手遊び、踊り、集団遊びなど)を生かした授業、場面づくり
- 生活面～「お世話する」から「サポートする」へ転換 1年生が自分でできるよう見守ることを中心に
 - ・1年生の「主体性」や“1年生になったという自信やプライド”を大切にする視点で
 - ・自由遊びをする時間を設ける ・「ユニバーサル」(文字・言葉と絵)な環境・取組み
 - ・子どもの実態に応じて～入学当初の生活の流れを担任の判断で柔軟に調整

2. 幼児期に育まれた主体性は小学校での主体性とどのようにつながっているの？

◎幼児期にふさわしい主体性の育みはどのように？

- ・何をしたいか、どうしたいかを自分たちで決める経験
話し合いを設け、**話す力、聞く力**を育む～**役割分担**
- ・友達の姿から「やってみよう」という**チャレンジする心**が生まれる～やる気が**“学びに向かう力”**に「できる」経験を積み重ねていく
- ・幼児同士で**遊びやルールを生み出す経験**
- ・きまりを**主体的に**守れるように、必要な力を付ける
- ・個々の**発達に合わせて“生きていく力”を育む**
- ・**行事は日常生活から**(行事のための行事ではない)

◎小学校での主体性の育みはどのように？

- ・子どもの**主体性に任せて“待つ”**ように
- ・**主体的に行動する機会を設けて**～運動会や係活動で「こんな風にしてみよう」という姿に
- ・休み時間などの**遊びを通して主体性を**育む
- ・**“できなくて当たり前”**と**思って関わる**
～手立てや指導の工夫へ
- ・**進んで参加**しようとする工夫～幼児期の経験の要素を取り入れる
- ・**困ったことを言えるように**～信頼関係を土台に
- ・**否定的な声掛けは絶対にしない**言い方の工夫

3. アンケートより～感想、今後取り組みたいこと など

思っている以上に、小学校生活を見越していろいろな準備をしていることに驚きました。

入学に向けて、グループ活動や当番活動、話し合いなど様々な活動を通して自主性を育んでいることを知りました。

幼児教育施設でも、保護者との関係づくりや共通理解を進めることが難しいことが分かりました。

子ども「やる気を大切にしているところ」「頑張りを認め褒めてあげているところ」「自己肯定感を高めるところ」は、幼小の共通点。



子どもの発達がつながっていることを、もっと意識しなければ。

小学校は教科学習のイメージが強かったが、「やりたい」「知りたい」を大切にできる時間があると知り、印象的だった。

年長で、主体性を育むために考えたり選択させたりしていると聞き、小学校でも1年生をお客さん扱いせず、「考えさせる」場面を明確にして主体性を育てなくては。



子ども同士の交流、学校探検、教師同士の行き来や参観の再開、情報交換の機会を増やしたい。

もっと互いの教育を知らなければ！幼保に見に来ていただけるとありがたい。

幼児期に取り組んでいることを小学校側がしっかりと受け止めて迎える準備を進めなければと思った。

就学に不安を感じている保護者や子どもにもスタートカリキュラムの内容などを伝えるなどして安心してほしい。小学校と連携して伝えられるとよい。

スタートカリキュラムが学校全体で共有できているのか不安を感じた。改めて研修や検証を行い、見直したい。

～編集後記～

事後のアンケートや、ブロック交流の記録からは、参集しての学び合いや情報交流を切望していたことが伝わってきました。次回、10月には、各園・校での幼小連携・接続の実践の内容や工夫なども伝え合えればと願っています。それぞれの場で、できることに一歩進みましょう。

<第2回>

日時: 令和4年10月18日(火)

15:00～16:45

※詳細は、後日お知らせします。